

平城宮跡歴史公園歴史体験学習館の 整備に関する検討委員会(第4回)

委員会資料

平成30年10月31日(水)

奈良県県土マネジメント部まちづくり推進局
平城宮跡事業推進室

○本資料の構成

第4回検討委員会の議事の流れ

- (1) 既往計画における施設配置の考え方
上位計画における当該施設の記載について確認
- (2) 事業用地の法規制
事業用地の建築にかかる規制の整理
- (3) 拠点ゾーンとしての施設配置の考え方
規制を踏まえ、既往計画を基に設定した施設配置の考え方を整理
- (4) 計画地内の空間構成の考え方
施設配置の考え方を踏まえ、空間構成の考え方を整理
- (5) 建物の景観へのとけ込みの考え方
具体的な景観検討の考え方を整理

（1）既往計画における施設配置の考え方

- ・ 大原則として、既往計画※に準じて検討を行う

※ 国営飛鳥・平城宮跡歴史公園 平城宮跡区域 基本計画（平成20年12月策定）
 平城宮跡歴史公園 拠点ゾーン整備計画（平成25年12月策定）

既往計画	計画に記載の項目	記載内容
基本計画	空間配置計画	<p><拠点ゾーン> （※歴史体験学習館は拠点ゾーンに配置する施設）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平城宮跡の正面玄関及び奈良観光の玄関口として <ul style="list-style-type: none"> ・ 公園全体の利用、管理、運営の拠点 ・ 歴史・文化交流拠点 ・ 観光ネットワーク拠点 を持ったゾーンとする ○ 朱雀大路から朱雀門に至るシンボリックな軸を強調し、往時の平城京のスケールを感じさせる広がりのある空間形成
拠点ゾーン整備計画	整備コンセプト	<p><具体的な配慮事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建物の配置は、朱雀大路をシンボル軸とし、南北方向を意識する ・ 往時の条坊道路の見通しを確保し、（中略）、平城京のかたちを感じられる空間にする ・ 朱雀門前の朱雀大路とその東西は、朱雀大路から控えて建物を配置することで、空間の広がりを感じられるようにする

（2）事業用地の法規制

事業用地（南北に約100m、東西に約90m）は市街化区域等であることから、複数の規制がかけられている

・第1種住居地域【都市計画法（第8,9条）】

- 建築基準法（第48条）により、
建ぺい率60%、容積率200%

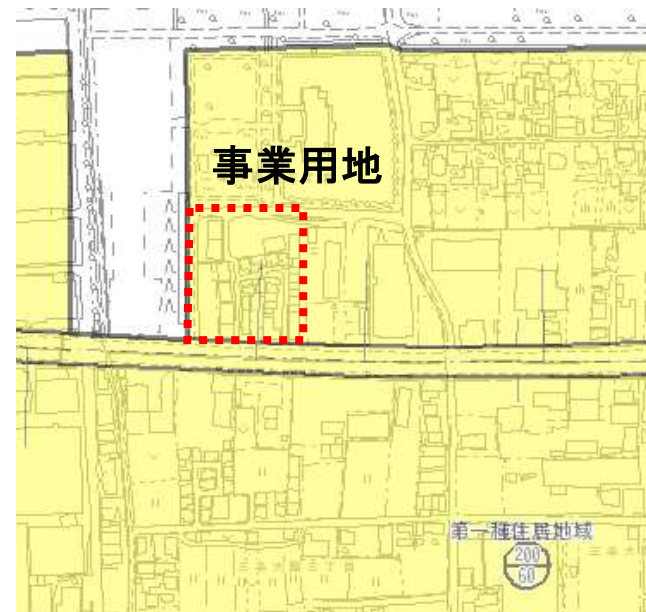


図1 事業用地の用途地域

資料) 奈良市都市計画情報公開システムの情報より作成

・高度地区【都市計画法（第8,9条）】

- 敷地北側の幅約30mの部分は地上から10mの高さ制限（緑色の範囲）
残りの南側の部分は、地上から15mの高さ制限（ペールオレンジの範囲）

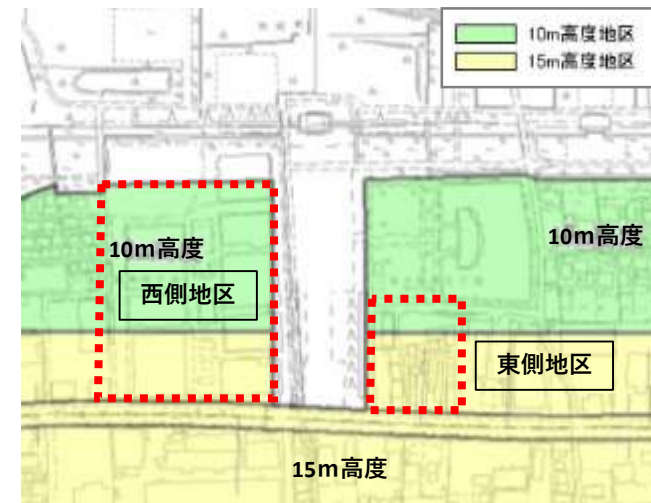
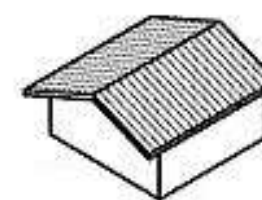
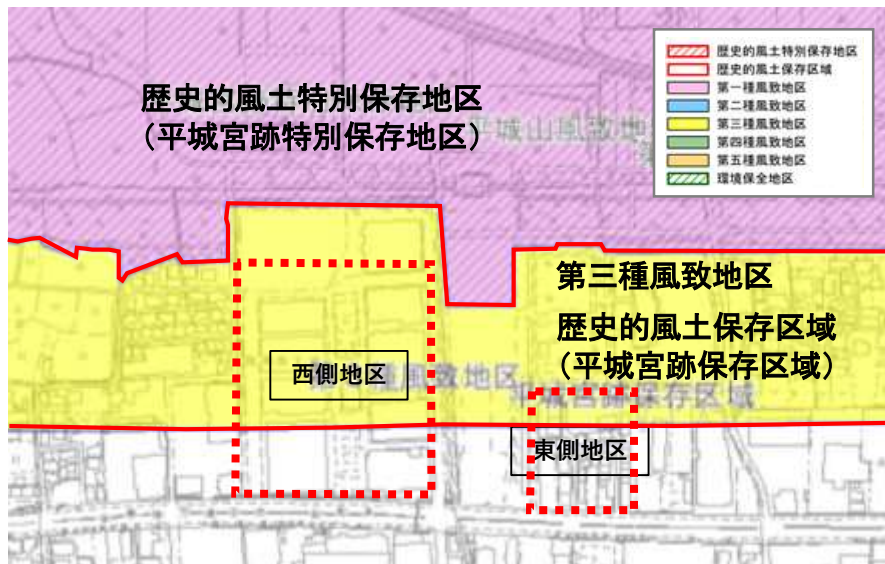


図2 事業用地の高さ制限

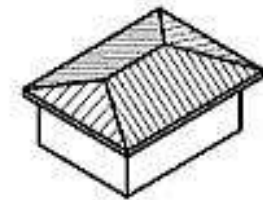
資料) 奈良市都市計画情報公開システムの情報より作成

（2）事業用地の法規制

- ・ 歴史的風土保存区域（平城宮跡保存区域）【古都保存法】
- ・ 第三種風致地区【都市計画法（第8,9条）、奈良市風致地区条例】
 - 敷地北側の幅約30mの部分は、地上から10mの高さ制限
 - 勾配屋根 切妻、寄棟、入母屋
 - 建ぺい率40%以下
 - 道路からの距離 2m以上
 - 緑地率 20%以上



切妻（きりづま）屋根



寄棟（よせむね）屋根



入母屋（いりもや）屋根

図3 事業用地の風致規制

資料）奈良市都市計画情報公開システムの情報より作成

（3）拠点ゾーンとしての施設配置の考え方

・朱雀大路をシンボル軸とし、南北方向を意識

→ 北側に位置する「平城宮いざない館」（国土交通省施設）は、朱雀大路をシンボル軸とし、南北方向を意識して配置されていることから、歴史体験学習館は「平城宮いざない館」の中心線にあわせた配置とする（図4）



図4 平城宮いざない館との中心線あわせ

・往時の条坊道路の見通しを確保

→ 条坊道路の見通しを確保した配置とする（図5）



図5 条坊道路の見通し

（3）拠点ゾーンとしての施設配置の考え方

・朱雀大路から控えて建物を配置

→ 「平城宮いざない館」の西面と歴史体験学習館の西面をあわせ、朱雀大路から控えた配置とする（図6）

・「朱雀門ひろば」全体を俯瞰して、 「朱雀門ひろば」全体のバランスを重視

→ 朱雀大路をシンボル軸とすることから、西の復原遣唐使船に並ぶランドマーク的なものが大宮通りから見やすいところに必要
南北軸を意識した建物とは別に、大宮通り面して配置することを想定（図7）

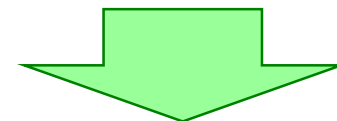


図6 平城宮いざない館との西面あわせ



図7 朱雀門ひろばを俯瞰した想定図

具体的な配置は、施設のテーマと組み合わせて検討



（4）計画地内の空間構成の考え方

＜全体の空間構成について＞

- ・ 交流エリアに人が集いやすくなるよう、どの建物からも視線を集める配置を計画
- ・ 各種体験やイベントの開催が可能な交流エリアを中心として、これを取り囲むような3棟の建物配置とする。（北側2棟は高さ10m以下、南側1棟は高さ15m以下）

＜動線について＞

- ・ 利用者導線は、北側の朱雀大路からと南側の大宮通りからの2方向の誘導を想定
- ・ 管理者動線は、「平城宮いざない館」と共通化を図れるよう、北東角からの出入りとし、利用者動線との重合を回避

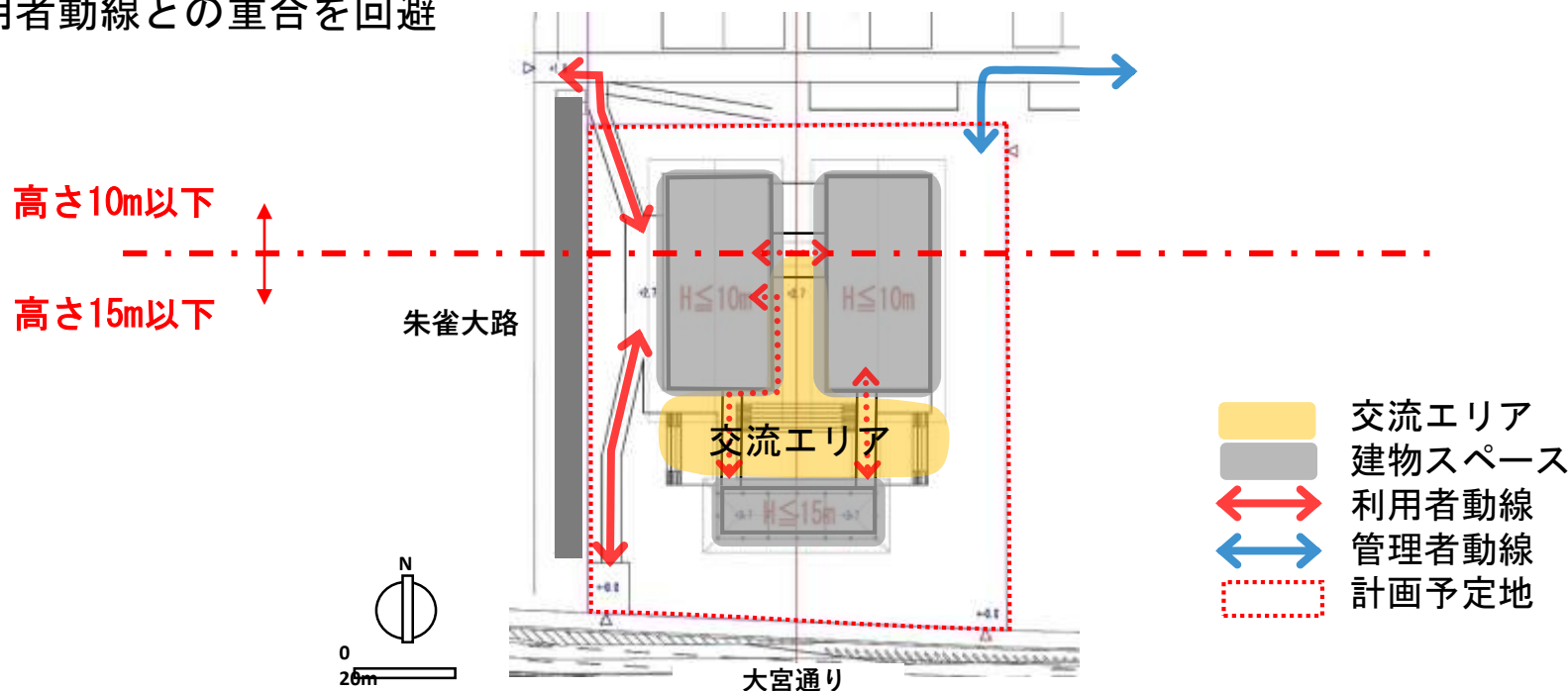


図8 計画地内の空間構成の模式図

＜建物の機能について＞

- ・ 歴史体験学習館に持たせる3つのテーマを1つの順路で体験できる配置にする
- ・ 歴史体験学習館には3つのテーマ（歴史、宝物、くらし・文化）があることから、建物ごとに1つのテーマを扱う
- ・ ランドマーク的な建物は、歴史体験学習館が扱う3つのテーマ（歴史、宝物、くらし・文化）のうち最も興味を引きやすい“宝物”を連想させるもので検討
- ・ 建物に囲まれた「交流エリア」は、半屋外・屋外の交流空間として、体験やイベントの場所として活用する

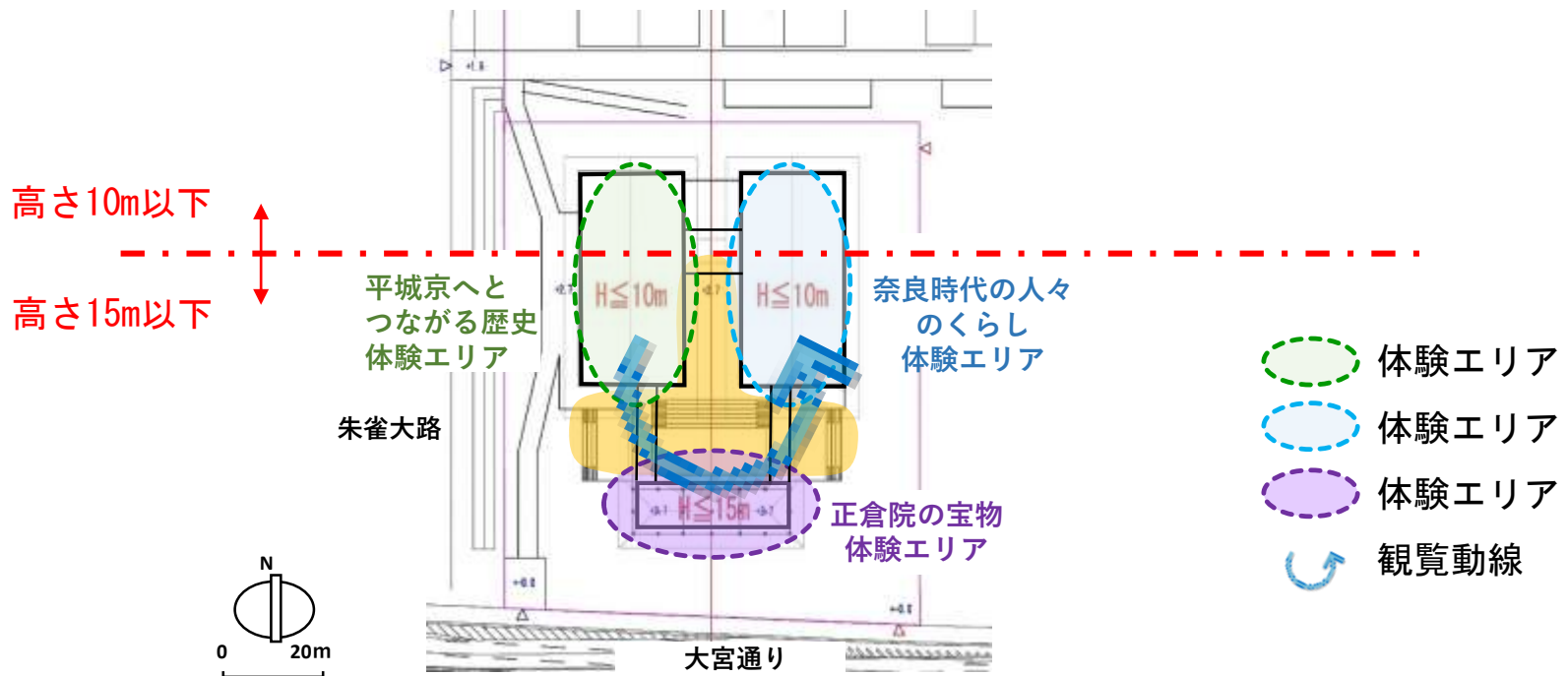


図9 建物の配置と機能の関係図

（4）計画地内の空間構成の考え方

＜建物内の諸室構成の想定について＞

- ・朱雀大路と大宮通りからの動線を南北棟西側建物のエントランスエリアで受ける
- ・受付、事務室などの管理用スペースは、エントランス機能に必要なことから、南北棟西側建物の北側に集約
- ・収蔵、設備室他は管理者動線を考慮して、南北棟東側建物の北東側に集約

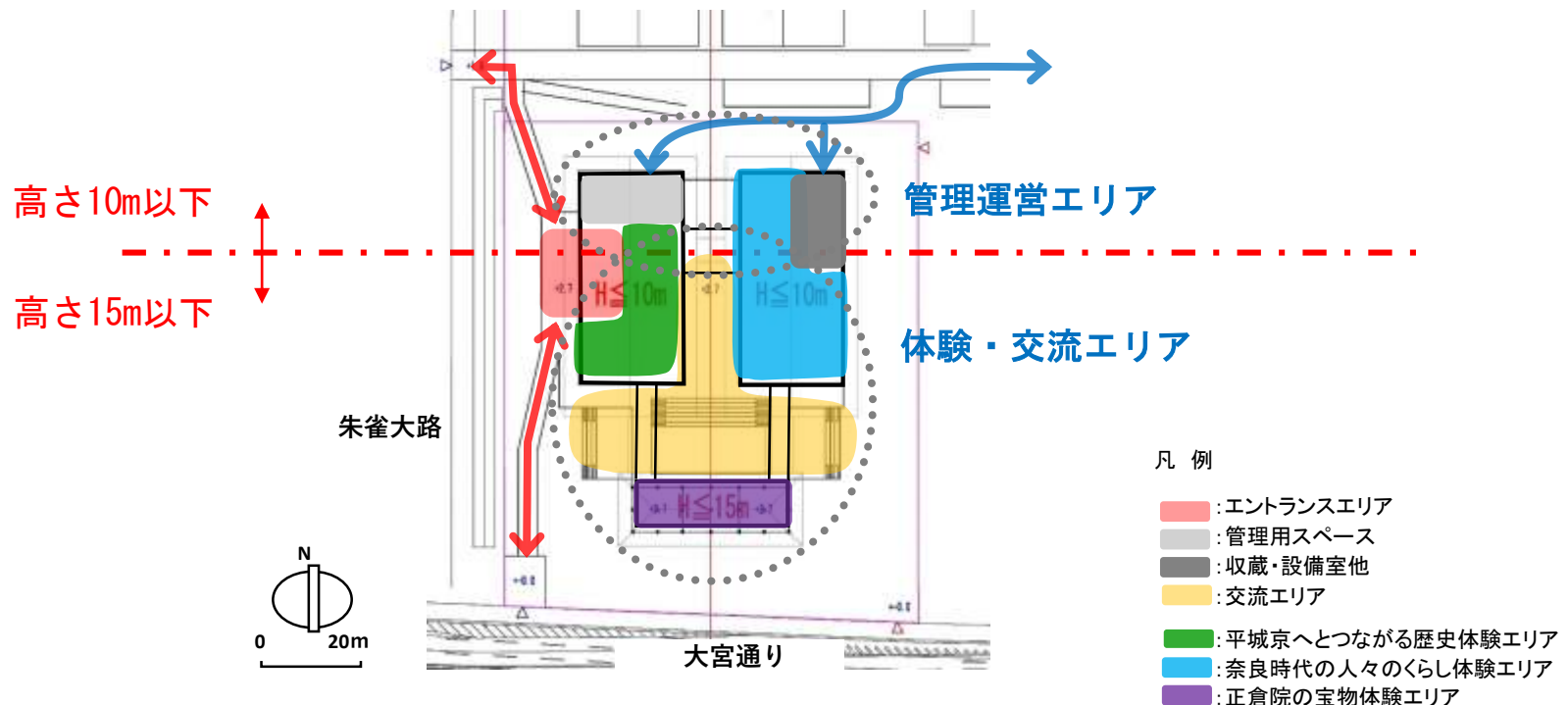
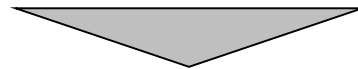


図10 建物の諸室構成イメージ図

（5）建物の景観へのとけ込みの考え方

○朱雀大路をシンボル軸とした景観形成

- ・平城宮跡歴史公園で最も重要な空間構成は、朱雀門前から朱雀門、大極殿へと続く景観軸であり、拠点ゾーンの整備には往時の平城宮の中核であった大極殿への軸性を高める必要がある。
- ・このため、大宮通りから見た平城宮跡の視点は、朱雀大路を中心とした西側地区と東側地区の対称性に配慮する。
- ・また計画地は、大阪方面からの主要幹線道路である大宮通りに面している。通行する多くの方々の耳目を集めるランドマーク的な建物を配置することで、朱雀大路から大極殿に至る空間の貴重性を強調する。



当時の日本人は大陸との「国際交流」により様々なものを取り入れ、

飛鳥古京から平城京に至る日本の国づくりが行われた（拠点ゾーンはその入口）

⇒ 西側地区：国際交流を果たした「遣唐使・遣唐使船」をランドマークとして配置

⇒ 東側地区：宝物を扱う「正倉院」をランドマークとして配置

（5）建物の景観へのとけ込みの考え方

＜外観デザインの基本方針＞

- ① 西の復原遣唐使船に並ぶ建物 1棟（H=15m）
→ランドマーク的な建物
- ② 「平城宮いざない館」の中心線を意識した2棟（H=10m）
→隣接建物との調和を図る建物

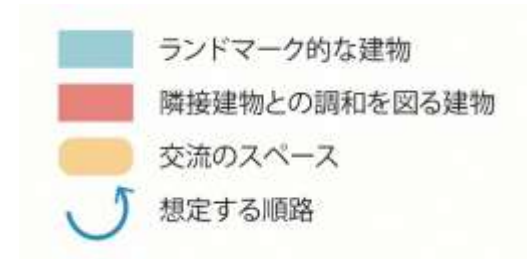


図11 3棟の外観デザインの基本方針図

（5）建物の景観へのとけ込みの考え方

＜ランドマーク的な建物の建築意匠の検討について＞

- ・ 歴史体験学習館に持たせる3つのテーマのうち、「正倉院の宝物」をテーマとする建物であることが、利用者にとってわかりやすい。また、宝物とこれを現在に伝えた建物を一体的に体験・展示することが可能である

→ 奈良時代の宝物を現在に伝える正倉院の意匠化

【正倉院を特徴づける構成要素】

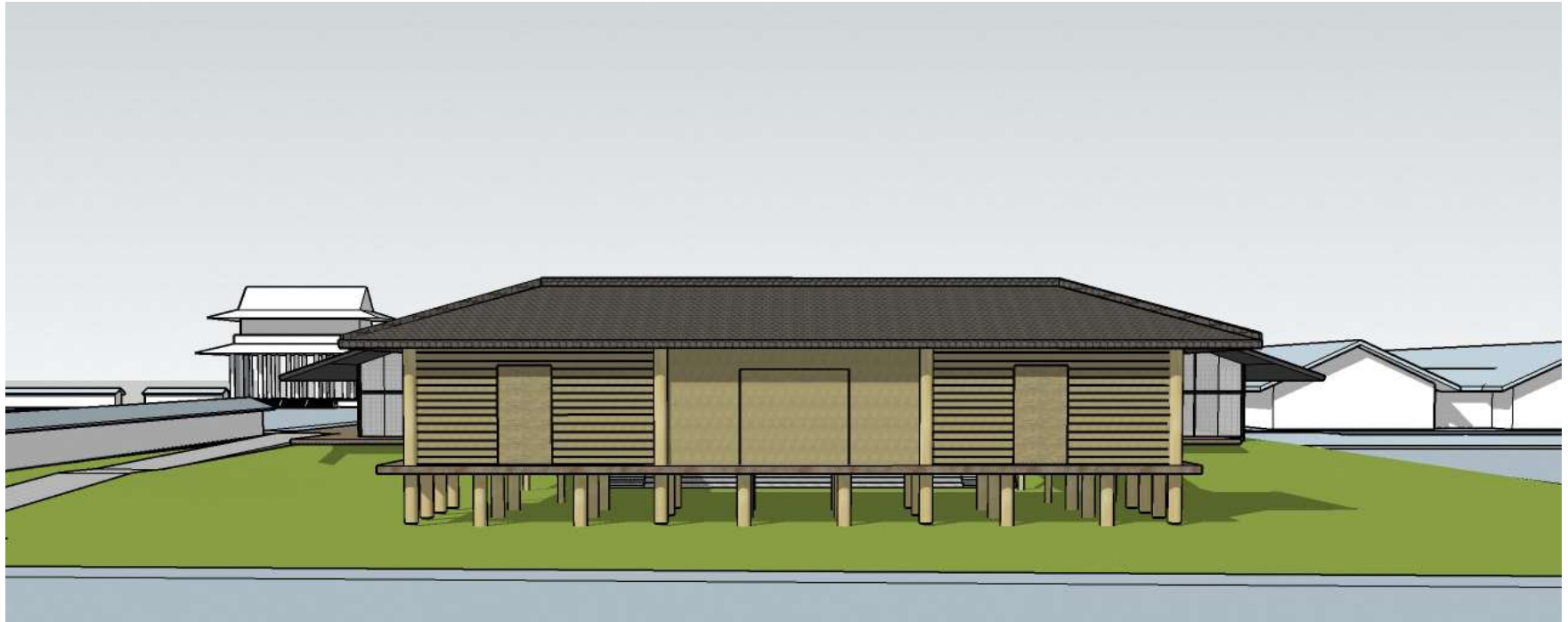
- ・ 正倉院の建築意匠を構成する要素を以下のように整理する

建物規模	⇒	実物大の規模で意匠化（H=14m）
屋根の形状	⇒	寄棟造
構造形式	⇒	木造、高床校倉造
外壁の仕様	⇒	南倉・北倉（校倉造） 中倉（板倉）



図12 正倉院と正倉院を特徴づける構成要素

（5）建物の景観へのとけ込みの考え方



※ 緑地部については基本設計で検討を行う

図13 ランドマーク建物の外観デザインイメージ（案）

- ・ 建物の外観（建物規模や屋根の形状（寄棟）等）は「正倉院」を意匠化し、建築構造並びに外壁に用いる木材の仕様は、現代建築としての素材やデザインで構築した場合のイメージ図

（5）建物の景観へのとけ込みの考え方

＜隣接建物との調和を図る建物の検討について＞

①拠点ゾーンの景観形成にあたっての具体的な配慮事項（建築）との連携

- 朱雀大路側の壁面は、ガラスを使用し、建物の中や外から人々のにぎわいが感じられ、明るく入りやすい建物とする
- 正面玄関としての品格が感じられる、落ち着いた色彩を使用する
- 主役である復原建物（朱雀門）との差別化を図った意匠・素材を使用する。（簡素な屋根形状（切妻造り）、金属板葺き）

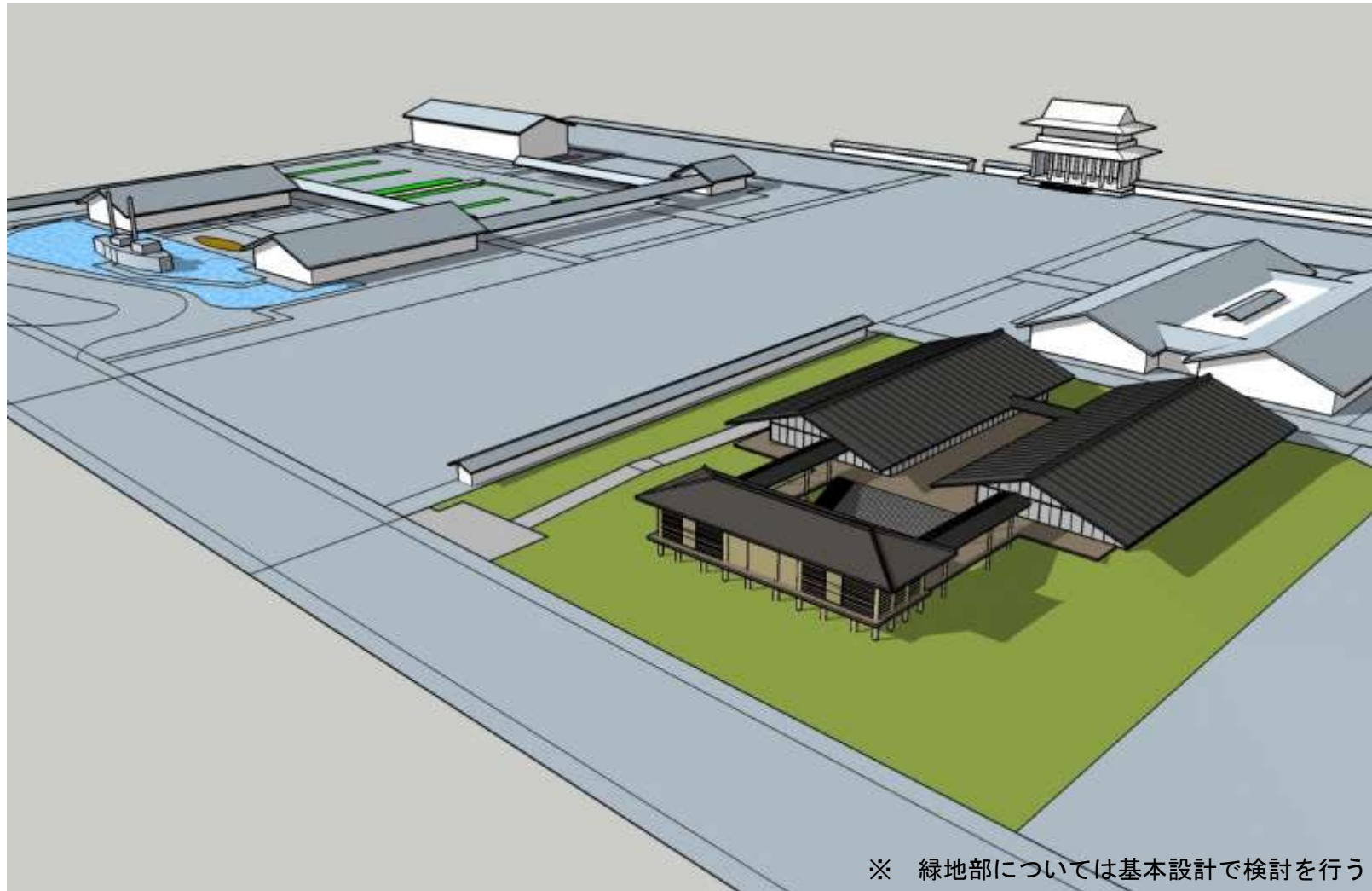


出典：「平城宮跡歴史公園拠点ゾーン整備計画」（平成25年12月）

図14 平城宮いざない館の景観配慮事項

→ 「平城宮いざない館」との意匠統一と連携に配慮

（5）建物の景観へのとけ込みの考え方



※ 緑地部については基本設計で検討を行う

図15 周辺と意匠統一を図る建物の外観デザインイメージ（案）